実践報告㊽

富良野協会病院における医療ソーシャルワーカーの役割

社会福祉法人　北海道社会事業協会　富良野病院
医療福祉相談係　MSW　所　大介
MSW　吉田 一樹

1．病院の概要

大正11年7月、昭和天皇（当時皇太子殿下）がご来道の折、社会福祉振興のためご下賜された5,000円を基とし、財団法人北海道社会事業協会として発足しました。

現在は社会福祉法人として道内に函館、小樽、余市、岩内、帯広、富良野、洞爺と7つの病院と母子生活支援施設、保育所、介護老人保健施設、看護専門学校等を設置運営し、地域の医療、保健、福祉サービスを行っています。

富良野協会病院は、1940年（昭和15年）に北海道社会事業協会の拠点病院の一つとして開院し、1976年（昭和51年）には富良野市、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村など一市三町一村を含む富良野圏域の「地域センター病院」に指定されております。当院は、平成19年5月に多くの皆様のご協力をいただく中、現在の地に255床を有する病院として移転新築開業しました。

2．病院内における相談室の位置づけ

院内相談センターにおいて現在、2名の医療ソーシャルワーカーが在籍しております。相談センター内にはその他、退院支援看護師4名、地域医療連携スタッフ2名、管理栄養士が3名在籍し、患者、家族へのあらゆる相談に対応しております。

3．医療相談室に寄せられる相談の特徴

相談対応件数の大半を占めているのが急性期治療後の退院支援となっております。また、富良野協会病院が位置する富良野医療圏においては、高齢化率が33.50％と全国平均を上回っており、これに伴い、退院支援においても高齢独居、高齢夫婦世帯、身寄りがいない高齢者、家族が遠方におり支援を積極的に受けられない世

帯への退院支援を行う機会が年々多くなっている印象を受けております。

また、公的な社会保障制度の利用についても、相談を受ける機会が多い印象です。患者様が抱える疾病に対して、必要とされる社会保障制度等をご案内することも、地域の患者様の生活を支える上での重要な役割と認識しています。

4．MSWの活動と役割

私たち医療ソーシャルワーカーは「病院と地域を繋ぐ存在」を念頭に、院内における退院支援や相談対応に留まらず、院外における活動を積極的に進めていきたいと考えております。近隣市区町村における地域ケア会議への参加はもちろんのこと、昨年から受け入れを開始した社会福祉士実習では、地域に来ている同実習生が、学校問わず一堂に会しディスカッションできる場を設け、地域課題へのアプローチにおける合同グループワークを行いました。また、地域の関係機関・関係職種を積極的に訪問し、地域に活躍する各職種における社会福祉士の役割に触れていただく、という活動も行いました。この社会福祉士実習の受け入れの背景には、富良野圏域における将来的な人材確保を目的のひとつとしているため、関係機関訪問先にはこの事情を説明し、協力をいただいております。富良野病院をこの先20年30年と機能していくためには、富良野圏域が地域として存続する必要があります。そのためにも、私たち自身が地域の様々な分野との架け橋となり、志の高い学生がこの地域に興味を抱き、病院に限らず「この地域」に来てくれることを期待しています。

また、富良野地域でも例外になく、少子高齢化の進行や地域住民との関係希薄化、8050問題にとどまらず80歳が100歳の介護を行う例もみられており、また介護職の減少により高齢者施設の閉鎖・縮小は止まりません。そのため、退院支援においても施設入所を希望された際には、60キロも離れた地域の施設を検討せざるを得ない状況にもあります。少しでも在宅生活を続ける一つの手立てとして、同居介護者の精神的負担を軽くする「ケアラー支援」の観点から、地域の「在宅介護家族会」と繋がりを積極的に作る動きを考えております。年齢や障がいの有無を問わず、この地域で生活している皆様に何が必要なのかを常に考え、関係機関の協力を仰ぎ、地域全体で取り組んでいける体制づくりを考えたいと思います。

富良野協会病院　ロビー

5．他機関や他職種と連携・協働した生活困窮者支援

富良野地域にはフードバンク、地域食堂が存在しており、私たちも代表の方との連携を密にしています。コロナ禍が相まって上記の需要は高まり、同時に生活困窮者の相談対応が増えたと報告を受けています。当院では無料低額診療事業を説明していることから、制度を活用して受診に繋がったケースや、収入確保のために障害年金の申請援助に携わることが多々あります。貧困やケアラー支援等、表面化しにくい地域課題へのアプローチのためにも、今後も継続的に情報交換の必要性を感じています。

6．おわりに

私は医療ソーシャルワーカーになって、様々な「価値」に触れることになりました。そして、その「価値」は白と黒で分けられるものではなく、そのほとんどがグレーであり、不安や悩み、苦しみを抱えることがあります。だからこそ、そこに差し伸べる手が必要だと気付きました。

周りに掛けてきたのは「迷惑」ではなく、「支え」を受けてきたんだと思える地域づくりを目指して、人との繋がりに感謝しながら、私たち自身が「繋がりの架け橋」となるべく日々精進していきます。

富良野協会病院　外観